

私は 30 年以上、テレビコンテンツ制作の仕事をしていますが、正直毎日が楽しくて仕方ありません。この仕事は、毎日、新しい事実の発見や、ドラマでいうと、新しい演出や、演技、ストーリー（脚本）の発見など、新しいものとの出会いだらけです。もっともこれは現場で仕事をしている私という一人の人間の感想に過ぎませんが。

そんなマスコミの仕事をしている中で、今回もラジオドラマ 17 作品という“個性”に出会わせていただきました。皆さんの作られたラジオ番組の中には、日々暮らしている中から、これはこだわってラジオドラマにしたいというそれぞれの“テーマ”や“思い”が、感じ取れました。

では、それをどのように効果的に、表現したら、誰もが聴きたいと思う、誰もが感動する“ドラマ”になるのか？

これがいつものこのコンテストの課題だと思いますが、重要な点は 2 つあります。それはまず、多くの人が振り向くテーマを素材にしていること。今回、不登校、芸能人の不倫、AI、退職代行などのテーマがありましたが、それら現代の社会問題をテーマにしている作品は特に結末が気になります。

そしてもう一つは、それをどのように描いたら、多くの人を引き込めるか？ということです。ここには技が必要ですが、それは小説やドラマがエンターテインメントと言われる通り、人々を楽しませていく“技”の繰り出し方なのです。

この二つを意識して、ドラマの形で表現できたところに、採点では点を積んでいます。で、普段から心掛けるとよいことは、普段の身の回りから、起きている問題に対してそれを興味を持って捉えようとする行動。行動しないと、自分の言葉は手に入りません。その言葉が表現の翼になります。そういう行動が大切です。そして「いつも心は動いておれよ」とかつてとある文豪も言ったそうですが、ラジオドラマはその気持ちを表現した言葉がすべてです。今回もそういった実感を持った言葉が私の耳に飛び込んできて、感動をもたらしてくれました。

皆さんには、今後も、言葉を大切に、ドラマという楽しい手法で、作品を作り続けて行ってもらいたいです。これを持ちまして講評の言葉とさせていただきますと思います。